

讀者より

ある保姆さん

の日記から

M、K

こゝに記すは一人の友から送られた日記の抄録であります。僅かに一枚の葉書が縁となつて結ばれたこの友と私の親交は數回往復の文通の中に加速度的に深められ、遂に一冊のノートが私の机上に送られました。その中には本年四月一日から七月十九日までの保育日記が一日も休まず細かに書き記されてありました。吸ひつけられるやうに讀み行く中に、私はこの友の現在の心境や我等が天職に對する希望を責

任、幼児に對する感謝とお詫び等が私と同じ心の動きに於てひびき合ふ事を痛切に實感しました。そしてこの心の動きは單に我々二人だけではなく、本誌の讀者の中にもこれと同じ心の動きを日々感じられつゝある方々がすいぶん多いのじやないかと思つたのです。殊にその根源となつて一貫してゐる一つの精神こそは、それこそ保姆の生命ともいふべき最も大切なものであること信じてゐますので、さうかお互にこの精神をあたゝめ育てゝ行きたいとの念願から、この内容だけを(名を書かずに)本誌に發表することにしたのであります。

さにかく平生から私の云ひたいと思つてゐる事や、心にあつても充分に言葉に云ひ表はせない思ひがこの日記の中に書き記されてゐるのは、實に決心に耐えぬのであります。尙本文の筆者は、去年も今年も年少組を受持つてゐられる若き保姆さんである事を申し添

へておきます。

新學期からは

私がこの幼稚園に来て滿一ケ年は過ぎた。今迄を思ひ返して見れば、始めのあの意氣も何時の間にか消え失せて、其の場逃れのお恥しい事はかりして來た。「その日暮し」……その日をさうにか過せばよいさういふ様な氣持であつた。

それでも一ケ年を経た私には、大體ではあるが此の幼稚園の姿さういふものを見る事が出來た。「今日迄は何もわからなかつたから、手出しせずに唯見學してゐたんだもの」を強ひて自分で理窟を付けて云ひわけをするならば、では新學期からは!! これからは自分の力のあらん限り手足を伸して活動すべき筈、私の理想、人こそ知らぬ私の心の奥には高き理想が秘められてゐる。一ケ年の見學(?)を経た上はこれから新しい道を進めて行く時だ。一分一

秒にも常に自己の最善を盡して行け！
進め！ さうして永久の幸福を得る事

こそ私の一生の希ひである。其の一日の努力を惜しむ勿れ。一日力一ぱいの生活の後には安らかな休息がある。張りつめた一日を送つた後就寝せんとする心持はされだけ幸福に満される事であらう。一日の計は朝にあり。その日その日一ぱいの生活をする爲には、先づそのスタートに於て充分の計畫と希望と決心が無くてはならぬ。神性宿る自己を自覺して、自己の行く手を開拓せよ！

今學期爲さねばならない仕事

讀書 人の教育、エミール、心理學
ピアノと畫の勉強 字をきれいに書
く事 英語書取

四月十一日 外遊指導 砂場

次第々々に我が手に入り行く子供の心、堅く閉された心の扉は目に見えて徐々に開かれて行くのを感じるのは、

愉快でくたまらぬ。Hも今日はよほさ女中と離れてゐたし、砂場遊びの時は愉快に微笑を洩しながら杓子を取つてゐたのを見て、私は思はず微笑を洩したのであつた。今まで外で遊んだ事の無いだけに、一人では何さなく怖氣が出るのであらう。

お砂遊は皆大喜びであつた。お山を作る者、お饅頭を作る者、お煎餅を作る者等、倦む事も知らず次から次へ遊びを續けた。

お山を造らしむる事、お饅頭を造る方法等を面白く教へたのを皆興味深く聞いてゐるが、喜んで杓子と竹筒を保持つてよく遊んだ。

Kは自分で兎に餌をやる事が出来なかつた。「お砂遊びようせん」云つてしない。Tも相手にならなかつたら何時までもじつとしてゐるさいつた質の子。O、S、T、M等の接觸が薄い様に思はれる。

明日も晴天ならば、始まる前にもつ

三年長組の子供と交つて遊んでもらふ様にしたらよいと思ふ。

遊具の使用方を教へずに子供自身から遊び方を見付け出す方が良いか、一通り使用方を教へて遊具に對する豫備知識を備へておくべきか、未だ疑問。

四月十二日 外遊指導 江り臺

天氣具合もあつたが、昨日に比べて今日は蜂の巣をつゝいた様な騒ぎであつた。

M、F、K等が夫々鋭鋒を理はして來た。おさなしく「汽車く」をつないでゐなくなつた。手を離して歩くのが面白くなつたり、自分勝手に飛び出すのが面白くなつたりして騒ぐ様になつた。

あの自由・自發活動と指導・一齊、ここに起る矛盾の悩みはまだ取れない。自發をそのまゝに伸しておけば會集の折の行儀は悪いでせう。始めから手を

横に垂れ直立の姿勢をする習慣をつけ
て置けば會集の時のお行儀は上々にな
るかも知れない。何れの方法を取らう
か。

何れを選ぶにも、要は子供に何等苦
痛を感じなくばそれでよい。お行儀良
くしてそれで苦痛を感じなくば、よい
のだが、そこに保姆の技量があるであ
らう。

四月十三日

腹案通り「汽車く」を男女別にしや
うさしてゐた。丁度その時使丁が兎に
餌をやりに来た。兎が餌を食べるのが
面白くて此方が一生懸命にカンくにな
つて汽車の説明をしてゐるのに、子
供の首だけは兎の方を熱心に見つめて
ゐた。折角昨晩から考へて意氣込んで
來た腹案だつたのに、これですつかり
壞されて兎を見る事にした。

決して保育は或る型に捉はれたもの
ではならない。自然な生活さして取扱

つて行かなくてはならぬ。その點から
云つて、會集をしたりするのは？會集
ある爲にされだけ現在そのものゝ生活
を犠牲にしなくてはならないでせう。
出来るだけ此の型の穀をぬぎ、新鮮味
の富んだ生々した保育をしたいもの
だ。

四月二十日

感謝する心

一日一日を感謝でみたされた敬虔な
心持で生活してゐる人は何ミなく尊く
感ぜられる。感謝する事、満足する事
を知らない人は不幸である。終日心に
或る不足不満を抱いてゐる心はまこ
に哀れむべき事だ。……
もつこ新鮮な謙讓な氣持で、子供の
世界に入り直して行きたい。

四月二十一日

理詰めの難かしい書物も讀む事は必
要だが、今の私にはもつこく情味に

富んだ文學的な本を要求してゐる。
「文は人なり」その人の文はその人の人
格を最も正直に現はしてゐる。「何もし
ないで本ばかり讀んでゐるからそんな
風にカチくになるのだ」母に云は
れてつくく、自分の缺點を省る。

五月十日

私の心に緩みのある證據には、子供
にむづかる子が出來た事、泣く子が多
くなつた事、缺席者が出來た事等であ
る。……

締る時はキチン締る様な習慣も一
日の中には必要な事であらう。殊にお
歸りには氣を落付かせて風も整へて、
靜かに別れの挨拶をして別れるやうに
したい。

五月十二日

「幼稚園では子供を愉快に楽しく興
味深く遊ばしめる事、これが最も根本
の目的ではないだらうか。

「時には子供の時から苦痛も味はしめ、之に耐える訓練も必要だ」こういう心理窟もあるだらうか。しかし、この理窟が眞理であるならば（現在の私は之を信じてゐない）私の今の頭を始めから造り直して行かねばならないであらう。

顔

人に向ふこの顔、感情の現はれであり、心の門戸さも云はれる此の顔、而も何等隠しだてする事無くむき出しの儘何處へでもひき下げて行く此の顔、自分の顔は一生見る事は出来なくとも、せめて鏡が映してくれる右左の變つた顔を眺めて、時々は自分の心を反省してみなくてはならないのであらう。

今朝登園の途、一女學生に遇つた。綺麗な顔だなと思ひ一寸目を止めた瞬間、其の顔は愛くるしい目をパチつかせつゝ笑みこぼれる様にして私にお辭儀をしてくれた。私には何處か見覚え

があつたけれどまだ嘗て面々向つて遇つた事もなかつたのだ。唯この間の〇〇の會で舞を舞つた子の顔がさうもよく似てゐるなと思つた位であつた。それだのにその子はさも懐かし氣に私の顔を見上げつゝ首をかしげてお辭儀をしてくれた。顔立ちが整つてゐる美人であつたさういふよりも、何よりもあの人懐つこい顔の表情が最も心に焼き付けられたのである。まだ一度も會つて話をした事もない私にさも親しさうに見るからに幸福さうな笑を投げかけてくれた子に對して、私は嬉しさ感謝の念で一ぱいになつてゐる。明日も會ふたらさ念じてゐるのだ。

私は門をくぐる際にももう一度振り返つて見たら、その方も帽子のツバに左手を優しくかけながら又會釋を送り返してくれた。私はひきく其の方の姿に心を打たれつゝ部屋に入るさいきなり鏡の前に立ちほだかつた。おゝ何さこわばつた難かしさうな顔であらう。今

の天使の様な乙女の顔に比べてつくづく恥かしく思ふ。よくも毎日〇〇から〇〇までの道を平氣でぶら下げて來られたものだ。私は笑つて見た。が然しそれは活力なき顔面筋肉の弛みに過ぎなかつた。

今私が斷言した様に、顔は心のその儘の現はれであるとするならば、これは本當に恐ろしい事である。

この顔で子供の前に出られたものではない。

毎日笑つて暮せる人は幸福である。

怒りつばい人はその人自身の心持を荒立たせるばかりでなく、周囲の人の心をも暗くするものである。それは罪惡である。少くも子供の前では決して怒つた顔を見せてはならぬ。子供達と共に幸福な笑顔に満ちた天地を造て行きたい。

叱らない事が假りに間違つた教育法ださ云はれたにせよ、私は子供に叱つた後の心持が堪えられないのだ。叱り

たくない。叱るかはりに尙それよりも
大きい効果を擧げる保育法を見出して
行かなくてはならぬ。

「手を横、氣を付け、足を揃へて」こ
させる事は、何が故にいふ確たる教育
効果があるのでも、子供が可愛さうな
氣がしてたまらない。「アーシンド」ミ
云ふ子供の歎息も聞いた。…(中略)
私は子供の本當の世界さいふものを
全く本當な所を知らないでゐるのかし
ら。

五月十七日

毎日毎日この頃の暮し方はあまりに
空漠過ぎはしないか。朝六時に家を出
て子供の歸る迄の、あの一ぱいの生活
はそれでいゝとして、それから後の五
時迄が多く無駄な時間を費し勝ちであ
る。出席簿付け・保育案・製作準備唯そ
れつぎりの仕事なのに、毎日歸宅が五
時になるのががゆくてならないので
ある。けれども頭ミ手の働きが鈍くて

さうにもならずにある。もつこ能率的
に働いて、強く生きて行きたい。

五月二十三日

保育の仕方は(根本原則は同じであ
つても)その表面に示された技術的な
事は保母一人々々の性格により各々が
有する人生觀によつて皆異なるものであ
る。然しそれは構はないと思ふ。必要
なのは常に變りない保母の誠實なので
ある。保育の技巧的な事は一方保母の
經驗に俟たねばならないが、眞實な心
さへあれば一日一日の保育も難なく無
事に進めて行く事が出来るのだと思
ふ。

(中略)

同じく參觀するのなら、子供ミ先生
ミが共に自由遊びに没頭してゐるその
自然の姿の中に、保母の言語動作等を
眺めて批評し研究する方が、それだけ
有意義であるかわからない。

六月二十一日

子供への態度 親切ミ嚴格
子供に接するに嚴なりミすれば、そ
こに自らの隔りを生じ接觸は薄らぐ。

愛は無くなる。

愛なき教育、それは教育ならず。

一口に云ふて、制御する事が嚴なり
ミ云ふならば、人に何ミ云はれ様ミ嚴
たるべく出來得ず。

眞に嚴格ミは何を意味するか。叱る
事必ずしも嚴にあらず。深き意味何處
かに存する如く思はる。されば具體的
に云ひて、さうする事が嚴にして、又
其の反對が緩なるか? 腹に入るまで聞
き開き度き希ひ切なり。

六月二十二日

(前略)

再び雜然ミした室内を見渡す。これ
が…この現實の姿が私の生活の一部
分ミすれば…私ミ共に居て此の室で
生活する子供達は私から何を受けて歸

たか。……

靜かにすべき時は靜かにし、仕事を
する時は實を入れてそれに努頭するこ
いふ風に缺けてゐる。靜かにしてゐた
からこゝて、活動は充分に出来てゐるの
である。否靜かにして居ればこそ、内
部活動は充分に出来て來るのである。
こもすれば外形に囚はれ輕卒に流れる
自分の行爲を戒めるに共に、S、M、
F、K等の輕卒な亂暴な態度を矯め直
さねばならぬ。

今日のチューリップの塗り畫の不出
來は決して子供を攻めるものではな
い。私の性格の缺陷ミ保育技量の不足
の現はれである。より良き子供達ミす
べく、先づ私はより良き保姆ミしての
生活に入らねばならぬ。

落付き、靜けさ、整理、整頓の出来
ない私は、神の御力を信じ、信仰の天
地により良き歩みの道を求めなければ
ならぬ。

M S 兒

元氣旺盛な子であるが、元氣な子とし
て一ぱいに伸してやりたい私の希ひで
あつた。私はあの子を良い子だ、愛し
てゐる。決して質の悪い子、手に負へ
ぬ子だなんて思つた事が無かつた。悪
戯はしてもそれは許してもいい。悪戯
ミして今までは滅多に叱らずに居たけ
れど、やはりそれは他人から見れば「親
の慾目」だつたのか？

今日二人の先生からMさんの亂暴で
仕様のない子だといふ事を聞いてすつ
かり憂鬱になつてしまつた。子供に對
する觀察が缺けてゐるので、本當に悪
かつた事をも見逃して來てゐたのかし
ら？「コラ〜」ミよく怒る子だがチヨ
コチヨコミ人に手を出して行く子だ
が、しかし私はそれ程きつく咎めなか
つたが、悪かつたかしら？

子供の本當の心持を知つてやる事
は、大切な事だが難かしい事だ。彼等
も小さいながらも一個の人格を持つて
ゐる。大人だからミ云つて、先生だか

らミいつて、私達は彼等の人格を傷け
る様な事をしては斷じていけないの
で、知らず〜の中ミさうした事は行
はれてゐる事はないかミ、常に案じて
ゐるのである。

空つほな机を眺めつゝ後に納つてゐ
る主なき小さな椅子を眺めてゐるミ、
何故ミもなく目頭が熱くなつて來た。
椅子にくゝり付けられた、座蒲團はそ
の子の顔ミなつて現はれて來て、子供
への愛情がひし〜ミ身に迫つて來る
……。

子供達よ、明日も又ね。